福井県土木部港湾空港課

福井県港湾整備事業　経営戦略

第１編　敦賀港

１　敦賀港の現状

（１）過去５年間の収支状況

（現状）・使用料収入によって維持・運営費を賄えている。

①維持・運営費

単位：百万円

年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	使用料収入	350	344	390	324	387
支出	維持・運営費	53	81	53	125	215
収支		＋297	＋263	＋337	＋199	＋172

②建設費

単位：百万円

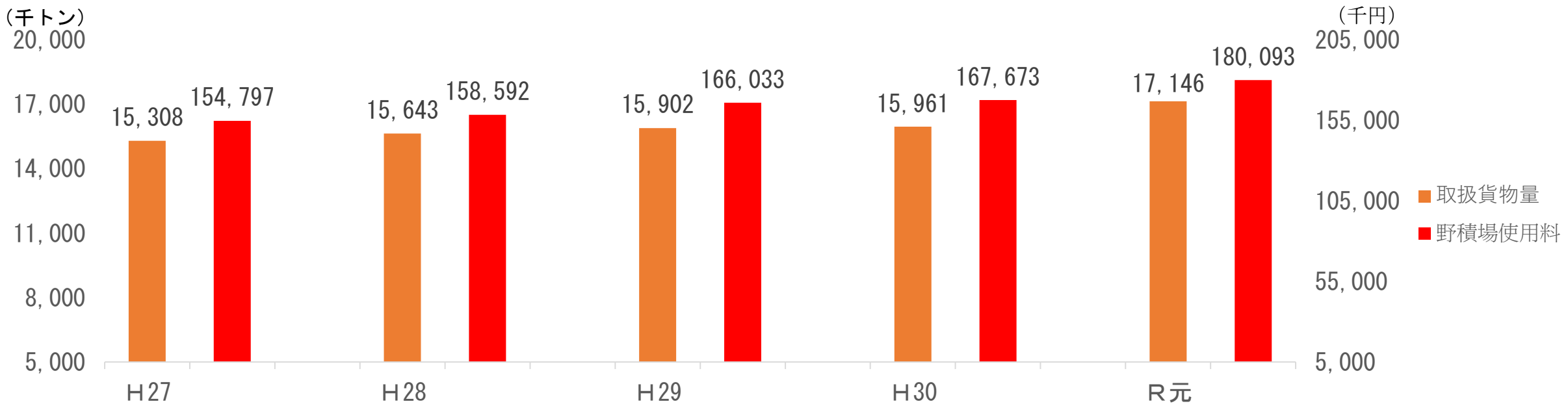
年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	起債	534	1,074	732	1,119	997
	使用料	297	263	337	199	172
	繰入金	1,568	1,655	1,482	1,530	1,397
支出	施設整備	534	1,074	732	1,119	997
	償還金	1,725	1,825	1,754	1,699	1,554
	消費税	140	93	65	30	15
収支		0	0	0	0	0

※維持・運営費の黒字分については、建設費の財源の一部に充当している。

（２）　収入

○収入（野積場使用料）の推移と年間取扱貨物量

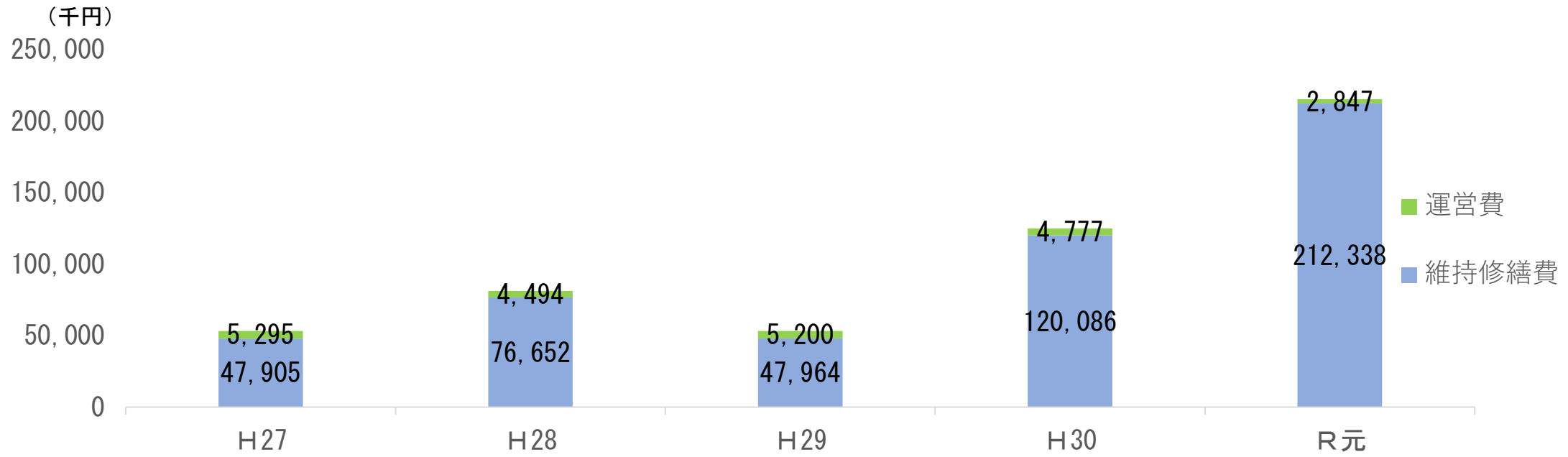
・使用料収入を増やすため、取扱貨物量を増やすことが課題。



・使用料収入の野積場使用料は、年々増加傾向にあり、取扱貨物量と比例して増加している。

（３）　支出

・老朽化している施設の維持修繕費抑制が課題。



	Ｉ上屋	Ｈ上屋	Ｆ上屋	Ｊ上屋	一号上屋	ＣＦＳ	多目的クレーン	ガントリークレーン
建築年	S48	S49	S52	S57	H5	H25	H3	H22
経過年数	47年	46年	43年	38年	27年	7年	29年	10年

※上屋の耐用年数　　３８年
クレーンの耐用年数１０年

・毎年多額の維持修繕費を要している。
・I,H,F上屋と多目的クレーンは、計画期間内に更新時期を迎え機能維持が課題。

２　経営の基本方針

（１）使用料収入の確保
（２）港湾施設の適切な維持管理
（３）運営経費の抑制

３　具体的な取組み

（１）鞠山南地区ふ頭用地供用により、貨物種別ごとの集約を行い、用地利用を効率化することで貨物取扱量を増やし使用料収入を増やす。

（２）予防的な修繕により長寿命化を図りながら機能を維持することを基本とし、Ｉ上屋については民間の倉庫建設に併せて撤去し、多目的クレーンについては更新して機能向上を図る。

（３）Ｒ１２年度までの運営経費を毎年精査、見直しを行い、Ｒ３年度比１００％の範囲内に経費を節減する。

第２編　福井港

1　福井港の現状

（１）過去５年間の収支状況

（現状）・使用料収入によって維持・運営費を賄えている。

①維持・運営費

単位：百万円

年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	使用料収入	79	79	77	78	80
支出	維持・運営費	5	15	1	8	1
収支		＋74	＋64	＋76	＋70	＋79

②建設費等

単位：百万円

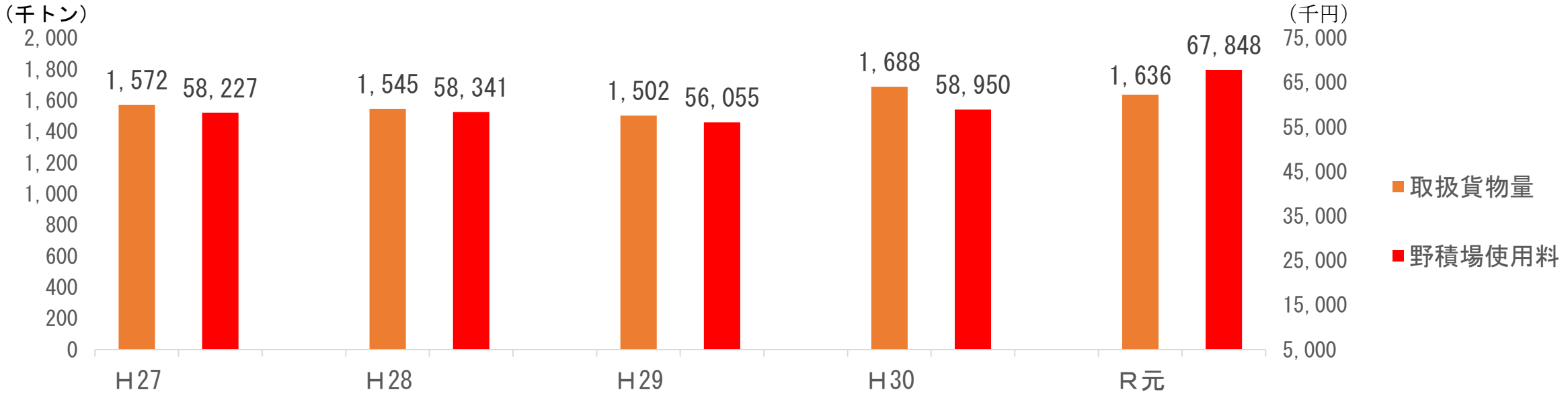
年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	起債	0	0	14	0	0
	使用料	74	64	76	70	79
	繰入金	18	25	0	0	0
支出	施設整備	0	0	14	0	0
	償還金	92	89	63	32	27
	繰出金	0	0	0	38	52
収支		0	0	0	0	0

※維持・運営費の黒字分については、建設費の財源の一部に充当している。

（２）収入

○収入(野積場使用料)の推移と年間取扱貨物量

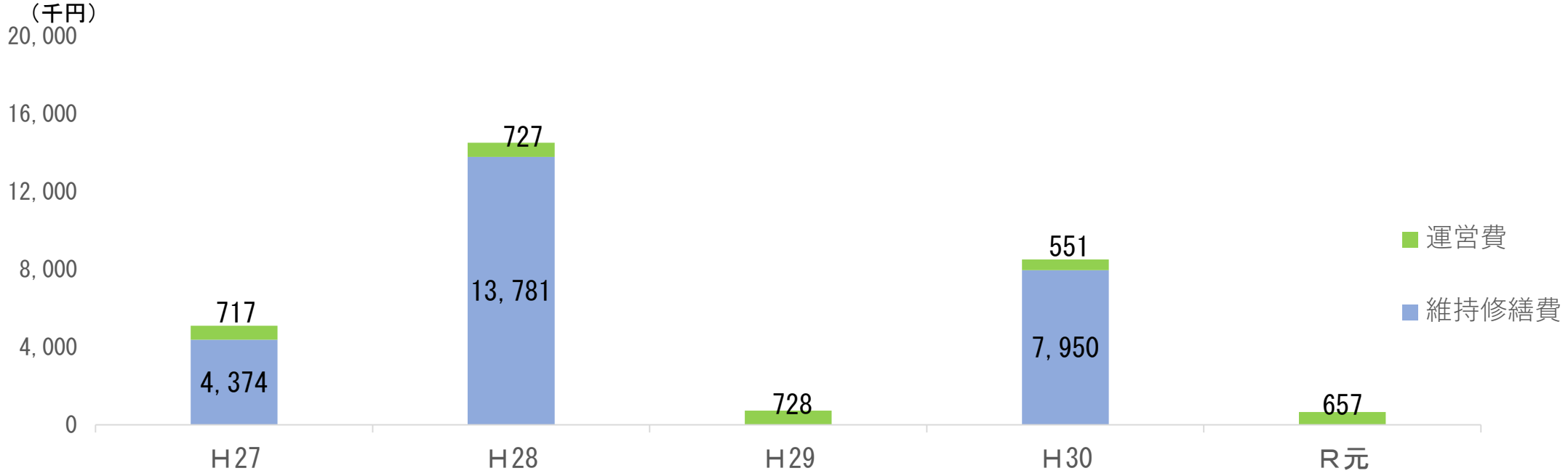
・使用料収入を増やすため、取扱貨物量を増やすことが課題。



・使用料収入の野積場使用料においては、取扱貨物量と比例して増減している。
（ ※R元は新幹線関連の生コン製造によるイレギュラー増加（約9,000千円））

（３）支出

・老朽化している施設の維持修繕費抑制が課題。



	１号上屋	２号上屋
建築年	S55	S63
経過年数	40年	32年

※上屋の耐用年数３８年

・運営費については、必要最小限の運営費で賄っており、毎年600～700千円程度で推移している。
・老朽化した上屋の修繕費が散発的に発生している。

２　経営の基本方針

（１）使用料収入の確保
（２）港湾施設の適切な維持管理
（３）運営経費の抑制

３　具体的な取組み

（１）PKS等の新規貨物等により取扱貨物量を増やし用地利用を進め、使用料収入を増やす。

（２）上屋については、長寿命化を図りながら機能を維持していく。

（３）Ｒ１２年度までの運営経費を毎年精査、見直しを行い、Ｒ３年度比１００％の範囲内に経費を節減する。

第３編　内浦港

1　内浦港の現状

（１）過去５年間の収支状況

（現状）・維持・運営費をかけずに運営できている。

①維持・運営費

単位：百万円

年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	使用料収入	10	10	10	10	11
支出	維持・運営費	0	0	0	0	0
収支		＋10	＋10	＋10	＋10	＋11

②建設費等

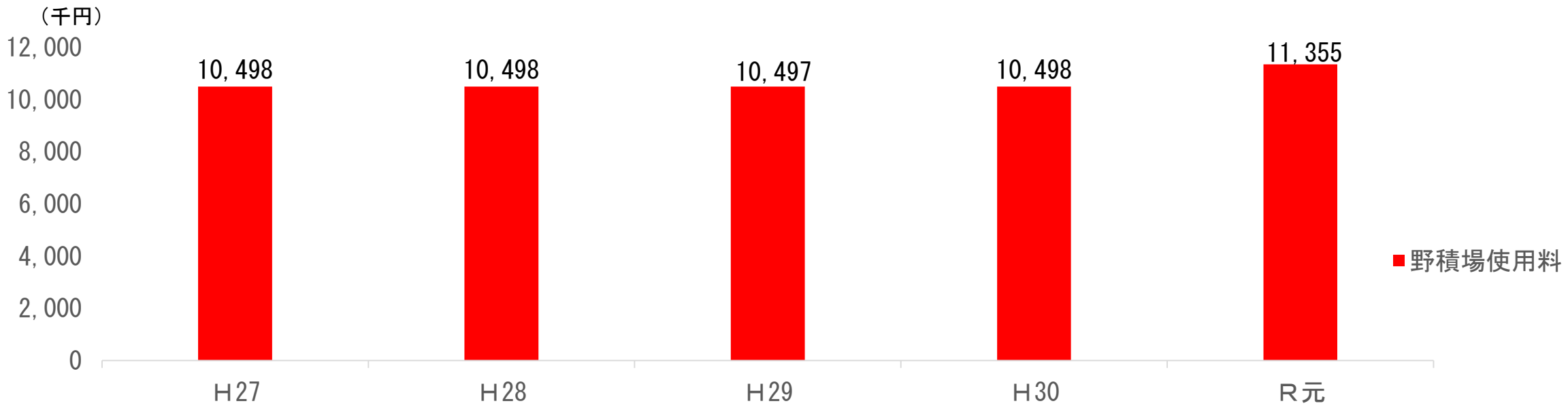
単位：百万円

年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	起債	0	0	10	0	160
	使用料	10	10	10	10	11
支出	施設整備	0	0	10	0	160
	償還金	4	4	3	3	3
	繰出金	6	6	7	7	8
収支		0	0	0	0	0

※使用料収入を建設費の財源の一部に充当している。

（２）収入

使用料収入については、過去５年間、約10,000千円程度で推移している。



２　経営の基本方針

・使用料収入の確保

３　具体的な取組み

　新たに造成したふ頭用地を活用し、木材チップ等の新規貨物等により、取扱貨物量を増やし使用料収入を増やす。

第４編　和田港

１　和田港の現状

（１）過去５年間の収支状況

（現状）・使用料収入によって維持・運営費を賄えている。

①維持・運営費

単位：百万円

年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	使用料収入	2.7	0.7	0.7	1.2	1.7
支出	維持・運営費	0.4	0.1	0.1	1.1	1.1
収支		＋2.3	＋0.6	＋0.6	＋0.1	＋0.6

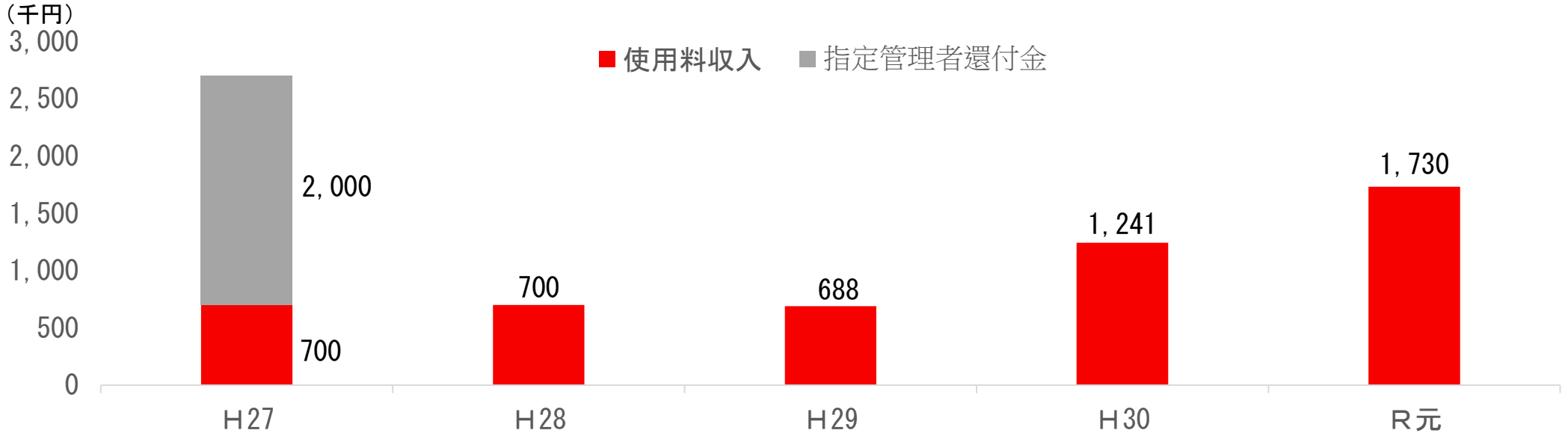
②建設費等

単位：百万円

年度		H27	H28	H29	H30	R元
収入	使用料	2.3	0.6	0.6	0.1	0.6
	繰入金	0	0	25.9	0	0
支出	施設整備	0	0	26.5	0	0
	繰出金	2.3	0.6	0	0.1	0.6
収支		0	0	0	0	0

※維持・運営費の黒字分については、建設費の財源の一部に充当している。

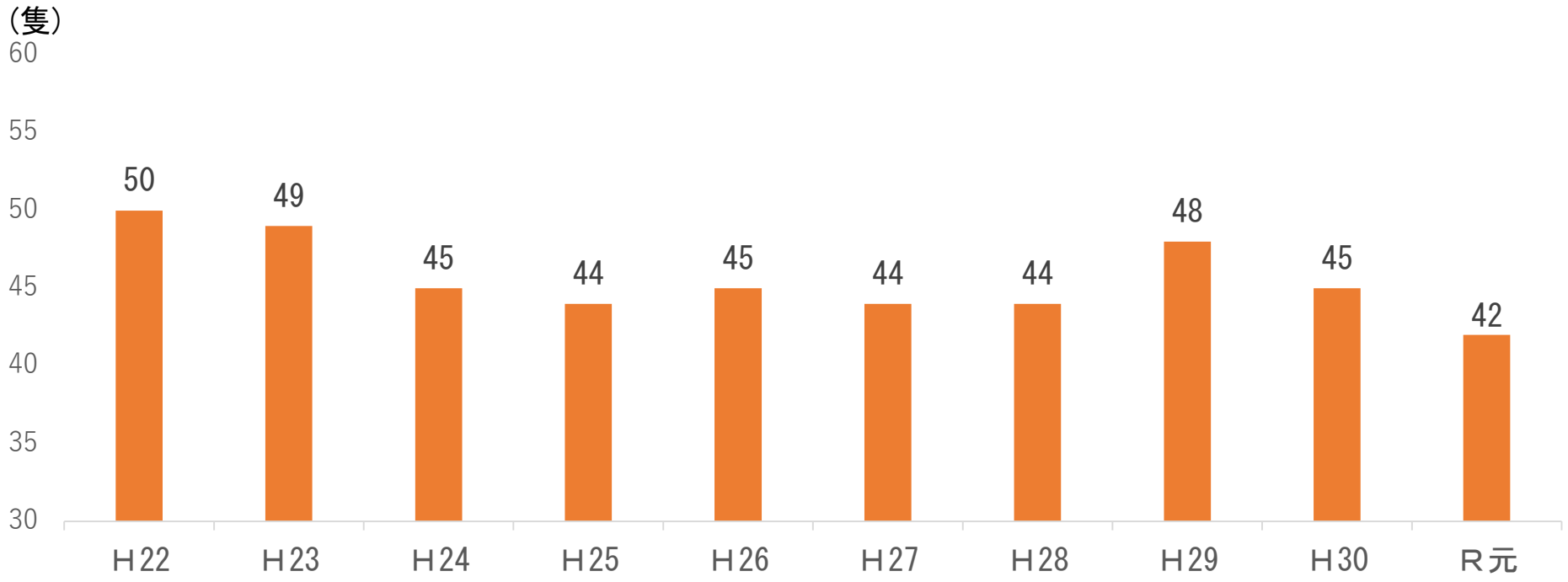
（２）収入



・使用料収入は、H30に給油施設を整備したことにより少しずつ増加している。
（※H27年にあった指定管理者還付金2,000千円は、H28年に指定管理料を見直したため、H28以降は無い。）

（３）契約隻数

○契約隻数の推移



近年のプレジャーボート所有者の減少や高齢化等の影響で契約隻数は、減少傾向にある。

２　経営の基本方針

（１）使用料収入の確保

（２）運営経費の抑制

３　具体的な取組み

（１）県外学生の合宿誘致を行うなど、地元と協力して新規利用者の確保に努めていく。

（２）Ｒ１２年度までの運営経費を毎年精査、見直しを行い、Ｒ３年度比１００％の範囲内に経費を節減する。